

# THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

## 東京グリーン

CHARTERED 1973

< 2022.06 >

BULLETIN

2021年7月～2022年6月



国際会長 キム・サンチュエ「Y's Men with the World」 「世界とともにワイズメン」(韓国)  
アジア太平洋地域会長 大野 勉「100年を越えて変革しよう」(神戸ポート)  
東日本区理事 大久保知宏「私たちは次の世代のために何ができるか?」(宇都宮)  
関東東部部長 大澤和子「私の地域から世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ!」(所沢)  
クラブ会長 樋口順英「力まず、愉しく、安全・安心」(東京グリーン)

会 長 樋口 順英  
副 会 長 青木 方枝  
書 記 布上征一郎  
会 計 青木 方枝  
監 事 柿沼 敬喜  
担当主事 木村 卓司

6月 ペンテコステ(教会の誕生)  
すると、一同は聖霊に満たされ、

“霊”が語らせるままにほかの国々の言葉で語りだした。  
イースターから、50日目をペンテコステと言う。イエスは、復活後この世で弟子たちに  
何度も会い励ましたが、弟子たちには信じられなかった。その後、40日目の昇天日に  
天に昇られた。ペンテコステの日に、弟子たちに天からの声が届いた。弟子たちは、  
聖霊に満たされ福音を伝えるべく各地に散った。教会の始まりである。

### 2022年06月例会

### 21年度を振り返り(宇・露戦争に思う)

直前会長 西澤 紘一

昨年21年8月、9月は、夏のオリンピック、パラリンピックがコロナ禍でありながら、数々の感動的な名勝負を残して無事に終わった。皮肉なことにイベントが終わった頃、10月から12月にかけてコロナ症感染者数は1日1ヶ台にまで激減した。ワクチンの普及と治療薬の開発に寄るところが大きかったのであろう。この安寧の時期に、我がクラブもリアルな例会を持つことが出来た。ところが、22年が明けるとオミクロン株なる新種が現れあっという間に2万人を越す大流行となり例会もZOOMに逆戻りとなった。その上、2月24日にロシアが突然隣国ウクライナを武力侵攻し、3か月を超える戦闘がまだ続いている。

ワイズの信条である「隣人を愛せよ」とは、全く相いれない暴挙である。

文化も言語もよく似た同じスラブ人同士である隣の国を襲い、あらゆる残虐行為を欲しい儘にしているロシアは今や全世界中から非難を受けている。

考えてみるとこの世における最高の権威は、国連ではなくそれぞれの主権国家であることを痛感する。国家元首の一言がすべてのルールを超えるのである。それが、核軍事力を持つ大国、さらに国連の常任理事国であれば誰にも止めようがない。しかも同じキリスト教国であるにもかかわらずロシア正教会もこの侵略戦争を支持していると言う。近親憎悪の典型例である。今や両者が疲れ果て根の尽きるのを待つしかないのだろうか。

我々は、彼が「ワイズの信条」を思い出してくれることを祈るばかりである。



#### ～～ 今期最終のリアル例会 ～～

日時:2022年06月15日(水) 15:00～17:00  
場所:東京 YMCA 東陽町センター YMCA ホール  
江東区東陽 2-2-20 03-3615-5565

受付:布上君/司会:柿沼君

開会点鐘	樋口会長
ワイズソング・ワイズの信条	全 員
聖句・お祈り	青 木 君
ゲスト・ビジター紹介	樋口会長
クラブ、部、区 全般報告 (6/8 役員会での議題を継続協議)	樋口会長
メンバースピーチ<<今期を振り返って>>	全 員
献金 (スピーチの時に)	〃
YMCA 情報	木 村 君
Happy Birthday(古平メン 1名)	
ニコニコ献金	発表 青木君
閉会点鐘	樋口会長

【例会出席率】 在籍:15名  
5月出席率 7/15 47%

出席:5月 例会(東京 YMCA 東陽町センター)  
(メン6名、メネット1名) 計7名

【ニコニコ】 5月 15,500円



## 2022年05月 第一例会 報告



2022年05月18日(水)第一例会は久しぶりに東京 YMCA 東陽町にて行った。18:30~20:30という時間帯で従来の東陽町での例会と同じに設定した。

出席は樋口・青木・柿沼・西本(東)・西本(晃)・布上(征)・布上(信)

今夜は久しぶりに「大新」の特別弁当をいただき、少人数ではあったが例会としてのセレモニーを行い、会長よりクラブ・部・区の近況報告、今後の区や部の会合・行事などを報告、特に6/4区大会への参加者を確定。さらに残念ながら中止となった5/14の神田川船の会に関しては柿沼委員から経過と今後の対応など、報告があった。諸々の議題を審議。和気藹々の懇談、話題は方々に飛び、2時間があっという間に過ぎ、お開きとなった。

ハッピーは青木メン

\*\*\*\*\*

## 2022年06月 第二例会 ZOOM 報告



2022年6月8日(水)ZOOM 役員会 15:00-16:30

(報告)

- ・5/21「在京ワイズ会長会」出席の件、会員大会の件。
- ・6/4-5第25回東日本区大会(Zoom)報告

出席;樋口、布上、柿沼、西澤、佐野、青木、木村

《最優秀クラブ賞受賞/東京グリーン》

受賞理由は、神田川船の会活動再開及び献金目標すべて達成により、とのことで本当にありがとうございました。

(審議)

- ・5/14 第85回神田川船、中止に対する今後の対応
- ・6/3(金)「田園調布学園校外授業」の反省事項など
- ・「第二の田園調布学園」の開拓(開智日本橋学園への営業訪問等)
- ・6/15(水)第一例会開催 東陽町でリアル例会
- ・7月キックオフ例会/22-23年度例会のテーマ案を考える/卓話者候補の検討至急
- ・納涼例会 8/17: ミニ宴会場を探す
- ・クラブ設立50周年記念行事実行委員会立ち上げ

40数年間、ワイズとともに歩んできたメンバーの方々が、自らのワイズ人生を振り返るための思い出に残る行事を企画する...

(布上 記)

## 田園調布学園 校外授業クルーズ催行

2022年6月3日(金)  
恒例、田園調布学園の生徒さんと先生方合計210名の皆さんを数艘に分担して乗船いただきました。



あいにく、午後から雷やにわか雨に会い、多少の戸惑いもありましたが、無事に終了しました。



天候が落ち着かない場合の対応に関しては、先月、5/14に豪雨警報で85回神田川船の会を中止、という決断をしたばかりでもあり今回の催行もやきもきさせられました。何とか開催出来た、と言うのが本音でしょう。クラブとしては、天候不順の場合の開催には順延となる予備日を設けることが必要、と、後日の委員会で議論になりました。なお、その他諸々の反省点もあり、今後の対策を真剣に考えることになりました。本日参加のグリーンメンバー

\*\*\*\*\*

## 東日本区大会 ZOOMで開催 6/4・5



グリーンクラブ活動報告発表と浅見さんを偲ぶメモリアルタイム。

今回の東日本区大会はZOOMで行われました。ワイズの会合もほとんどがZOOMで行われ、我々も慣れており、全く違和感なく順調に推移していたと感じました。東京グリーンクラブ「最優秀クラブ賞」受賞は思いもかけない名誉な事。感謝申し上げます。(布上 記)



## 2021年度の振り返り (会長) 樋口 順英

今年度はじめてこの伝統あるクラブの会長を仰せつかりました。

なにぶんにもすべてが新しいことばかりですが、経験豊かな先輩メンバーの暖かい激励と支援をいただきました。



この期間でとりわけ故浅見隆夫メンのご逝去はほんとうに悲しい出来事でした。一方、コロナ禍の中、CS事業「神田川船の会」再開等が評価され、当クラブ初の東日本区「最優秀クラブ賞」受賞の誉となりました。あらためてメンバーおよび活動を支えてくださったすべての方々に厚く御礼申し上げます。

ついては、以下この1年を振り返りたいと思います。

**1. 故浅見隆夫メンのご逝去**(2021年11月10日逝去、享年81歳) 当クラブチャーターメンバーであり第9代東日本区理事を務められ、クラブのリーダー、心の支えでもありました。

**2. 当クラブ初の東日本区「最優秀クラブ賞」受賞**(22. 6. 5) 受賞理由は、①CS事業「神田川船の会」の再開、②各種献金目標達成です。

**3. CS事業「神田川船の会」再開**

19年秋以来雨天やコロナ禍のため中止しておりましたが、21年10月、コロナ感染者減少局面に運よく重なり3年ぶりに再開しました。安全安心のため少人数でのトライアルでしたが「大人の休日」を楽しんでいただけたと思います。また同時期に昌平小学校(4年)課外事業も開催し生徒さんの笑顔に感動しました。

22年5月は残念ながら雨天中止となりましたが、翌6月には3年ぶりに田園調布学園(高1・210名)船上授業を実施しました。またCYサ事業資金支援をいただき案内用小冊子を6年ぶりに刷新しました。以上一連の活動では、目黒実行委員長の冷静な判断及びリーダーシップは際立っており、余人に代えがたく、引き続き、お客様の水上の安全安心を守るため、船宿さんを含めた組織的対応をお願いしたいところです。

**4. 例会の活性化**

①キックオフ例会(Zoom)での、上條直美講師による卓話「SDG'sのこころを学びワイズ活動に活かそう」は充実した内容で、新年度のすばらしい門出となりました。

②リアル例会(4回:21/11,12, 22/4,5)

久々のリアル例会では、ディスタンスをとり、マイクカバー、マイク用殺菌スプレーなどによりできるだけ安全安心の対策を行い実施しました。

11月は俳優水室幸夫氏による声だしトレーニング、12月は故浅見メンを偲びしめやかなクリスマス例会、5月は会員各位の近況報告、6月は1年を振り返りました。

③今後、さらに充実し、楽しく魅力ある例会を行うことにより、メンバーの融和をはかり、クラブの新規会員入会につながればいいなと思います。

## 2022年に思う(今年が分水嶺) 西澤 紘一

今年2022年は、ワイズ誕生100周年にあたる。

「Change2022」でメンバー、一丸となって会員増強に努めてきたが、20年、21年とコロナ禍が世界中を席卷し、思うように事が運ばなかったことが残念であった。



同時に今年、明治維新から第2次世界大戦終戦までの77年間(1868年から1945年)と戦後から現在までの77年(1945年~2022年)が同じ期間に当たる。つまり前者が大日本帝国憲法下の殖産興業、富国強兵の時代であったのに対して後者は日本国憲法の下での民主主義と平和を享受した時代であった。

昨年度のNHK大河ドラマ「青天を衝け」で、幕末から明治維新に至る日本近代化の歩みを渋沢栄一の生涯を通じて描かれた。維新後、次第に民衆の幸福より軍が主導する強兵策のみが国の目的となり、悲劇の第2次世界大戦に突っ込んでいった。晩年の渋沢が「俺たちの目指した日本は、これだったのか」と独白する場面が印象的であった。明治政府が西欧を真似しつつ追い付け追い越せと近代化を急ぎ、西欧のキリスト教を基盤とした社会システムを真似て、天皇を祭り上げることで国を一体化し皇国日本として自称一流国を作り上げてきた。しかし、戦前の日本はすべてが張りぼてで精一杯背伸びをした虚構の国であったように思う。戦後は、その反省の上に立って、ゼロベースから新しい民主主義、平和日本国を作り上げてきたはずであった。果たして、戦後77年間の歩みは、焼け野原で誓った新しい国作りが進んでいるのか、1945年の原点に戻って考えてみる機会でもある。

\*\*\*\*\*

## 1年を振り返り一言 (クラブCS委員長) 佐野 守



私は昨年のパラリンピックのボランティア活動が終つてから、コロナの為に生活が一変し活動予定も変わりました。

クラブ役員会と例会はZoomリモートで開催し便利になりました。現在ではZoomの会議が他の団体でもあり、グリーンの会

議が大変参考になりました。

体調の維持にはコロナの為に体育館などに行けず、毎朝近隣を散策します。1時間ほどの爽やかな散歩です。

障害者スポーツも色々活動に中止が出ていました。地域活動で西荻北町会と上荻窪育成委員会で副会長の役員に任命されました。新しい活動がスタートしました。

クラブの昨年のごとでは浅見さんの逝去が本当に残念です。私のグリーンクラブ移籍の時に大変お世話になりました。国際大会では浅見夫婦とご一緒した思い出が印象に残っています。まだまだご活躍できたのと思います。

早くコロナの収束が来る日を祈りながらワイズの活動に頑張ります。グリーンクラブも区大会でクラブ最優秀賞を獲得、今後も「神田川船の会」の発展と毎月の例会の充実を願って頑張っていきたいと思います。

ワイズも新年度が始まります。健康に活動ができるように頑張ります。宜しくお願い致します。

## YMCA コーナー

1. コロナ禍の影響で、食品の無料配布に切り替えて継続していた「下町子どもダイニング」(子ども食堂)は、4月18日に通常の方法で再開しました。11家族の参加に加え、食事づくりのボランティア、スタッフなど42人が集い賑やかなひと時となりました。開催にあたっては多くの個人、企業よりご寄付をいただきました。

2. 「ウクライナ緊急支援募金」は、戦争が長期化していることから期間を延長し、8月末を期限に第二次募金の受付を開始しました。募金はウクライナYMCAと近隣諸国のYMCAが連携して行っている避難民への人道支援に加え、日本に避難するウクライナの人々の生活支援のために用います。すでに日本YMCA同盟が中心になり、日本に避難を希望する約100名の避難民を受け入れ、来日後の生活、教育、就労などトータルな支援を行っています。



す。東京YMCAには5月16日現在、8,031,482円の募金が寄せられています。



3. 5月21日、「第19回東京YMCA会員大会」がハイブリッド形式で開催されました。

会場である山手センターとオンライン、合わせて73名が出席。開会礼拝に続く第二部は上田晶平会員部運営委員長の挨拶で始まり、2022年度の会員部運営委員として25名が推挙されました。またlibyの活動拠点を7年にわたり提供された岸野憲氏・眞理氏に「Volunteer of the year」の感謝状が贈られた。さらに特に活躍した4名のユーザーが「Youth Volunteer of the year」として表彰を受けました。菅谷淳総主事による東京YMCAの2021年度報告に続き、第三部では、「これからの東京YMCAをともに考える」のテーマのもと、総主事他3名の職員から発題があり、質疑応答ののちに8つのグループに分かれて分団協議を行いました。最後に、松本数実国際・総合教育事業統括からウクライナ支援活動の報告があり、Viktor Serbulov ウクライナYMCA総主事もオンラインで登壇し、東京YMCA会員に向けて感謝のメッセージをいただきました。

4. 6月8日より、夏季キャンプ・スクールの受付を開始。6つの宿泊キャンプ、3つのデイキャンプの他、水泳、語学、音楽などの各種スクールを準備しています。今回もフレンドシップファンドを活用し、経済的に困難なご家庭には所得に応じて参加費を援助する予定です。

5. 「東京YMCA会員芸術祭」は、東京YMCAの会員・関係者が、絵画や書画、CGアート、陶芸、手芸、彫刻など自身の趣味・特技を披露する交流イベントで、毎年個性あふれる芸術品が多数集まります。今年度も作品を募集します。25回を迎える今年は、ホームページを活用しての、オンライン開催といたします。コロナ禍が落ち着かないことから安全を優先に、オンライン上で作品を通じて皆さんとつながりを感じたいと願っております。

作品を写真にしてお申込みください。ホームページ上にフォトギャラリーとして掲載します。会場に行かなくても鑑賞できるため、多くの方にご覧いただく機会としたいと思っています。



6. コロナ禍で生活にお困りのご家庭を支援するため【食品寄付のお願い】「第9回フードパントリー(食品の無料配布)」を開催します。配布対象は、江東区在住のひとり親家庭や生活が困窮されている世帯です。

今回も50世帯に配布予定です。食材1つでもけっこうですので、ぜひご支援いただきたくお願いいたします。

7月18日開催予定

### フードパントリー寄付募集中!

フードパントリーで配布する食材を募集しています。  
"個人"でも"1つだけ"でもご寄付いただけます。  
フードパントリーとは?  
主に、ひとり親世帯や生活が困窮されている世帯に無料で食料を配布する活動です。

対象:江東区在住のひとり親世帯 配布世帯数: 50世帯

受付中の寄付

- ・お菓子
- ・乾麺(そうめん、パスタなど)
- ・缶詰
- ・調味料(めんつゆ、だしの素等)
- ・レトルト食品(どんぶり系、シチュー系、※カレーの場合はゼロ)
- ・インスタント食品(インスタント麺、味噌汁等)
- ・惣菜の煮(うちのごはん、クックドゥ等)

etc...

※賞味期限が3ヶ月以内の余裕のあるもの(22年10月頃以降のもの)



Amazonの  
欲しいものリスト  
からも寄付できます!